

小径材を活用した異樹種集成材の開発支援



～ 県産材を活用した新たな集成材～

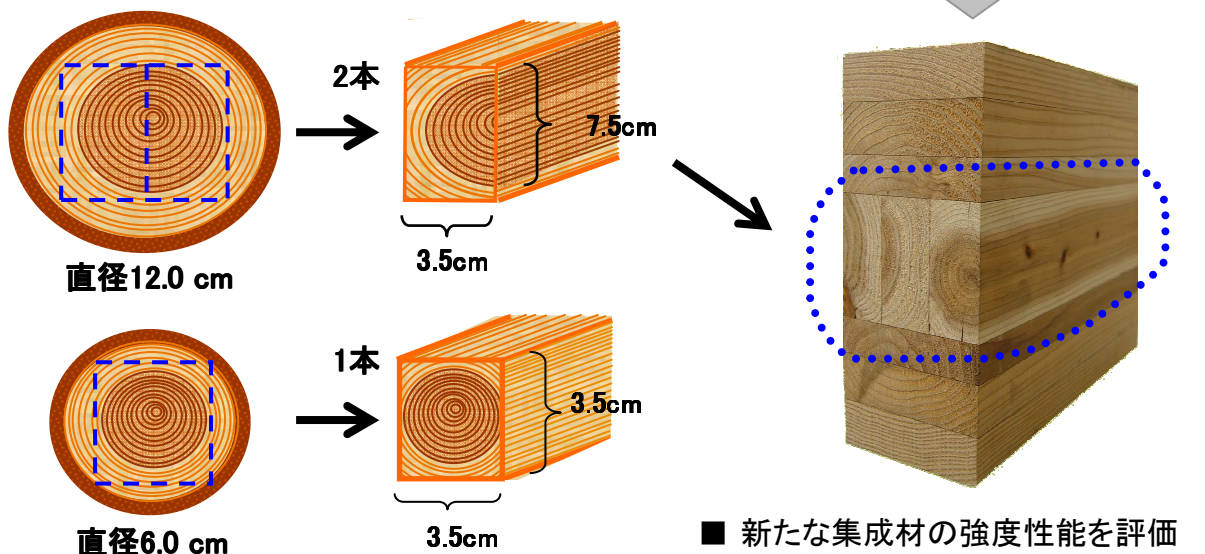
連携機関 | 中国木材株式会社
研究期間 | 平成22年度[受託研究]

技術支援のきっかけ

- ◆ 県内の山林は伐採時期に達しているスギが多く、伐採量も大幅に増加する見込みです。それに伴って、使い道の少ない直径12cm以下の小径のスギも多く伐採されます。
- ◆ 中国木材では、小径材の新たな利用拡大を図るため、異樹種集成材への利用を検討していました。

技術支援の内容

- ◆ 小径材からは横幅の短い木材しかとれませんが、これを縦に使った新たな異樹種集成材を開発しました。
- ◆ 林業技術センターは、構造材の強度や接合強度を評価する技術を活用して、新たな集成材の強度性能を明らかにしました。
- ◆ この結果により、平成24年度に日本農林規格(構造用集成材)が改正され、新たな集成材が建築部材として利用できるようになりました。



技術支援の活用場面

- ◆ 構造材の強度評価技術は、木質系の建築部材やパレット等、新たな製品の強度評価に活用できます。
- ◆ 構造材の接合強度評価技術は、新たな接合金物や接合方法の開発にも活用できます。